

PROCESS

工事の流れ

着工前



▲起工式

施主さまにとって記念になるため、執り行う事が多いです。



▲鎮物埋設

神々へ神聖な土地の上に建物を建てる事をお許しくださいと祈りながら埋設します。

基礎工事

家の土台となる部分を構築する工事です。



▲地業工事

基礎をつくる前の下地準備をします。掘削した地盤面に碎石を敷き、しっかり締め固めます。



▲土間防湿シート敷

コンクリートを打設する前に敷き地面からの湿気を防ぎます。



▲型枠工事

基礎外部に型枠を設置します。



▲基礎配筋

設計図に従ってコンクリートの中の鉄筋を配置します。コンクリート打設前に配筋検査を行います。



▲コンクリートスラブの打設

床下全面にコンクリートを打設します。



▲基礎立上りコンクリート打設

立上り型枠にコンクリートを流し込みます。



▲レベラー施工

基礎の天端の水平精度を上げるためレベラーの作業を行います。急速な乾燥割れを防ぐため、養生も行います。



▲基礎完成

コンクリート養生の後、型枠を外します。



▲配管工事

左：埋設配管の状況です。

右：建物の維持管理が容易になる排水管を使っています。



▲基礎部の断熱

左：ユニットバス下の断熱施工中です。

右：玄関土間下の断熱施工中です。



建築物の骨組みの工事のこと。柱、梁など構造材を組み立てていきます。



▲土台工事

左：土台設置状況

中：土台下基礎パッキン施工（コンクリートと木質土台の間にパッキンを施します。
床下の空気を循環させ、シロアリや腐朽菌の発生を防ぎます。）

右：防蟻処理（吹付）※劣化対策等級2以上を取得する為に必要な工程です。（当社基準：劣化対策等級3相当）



▲床貼工事

左：床断熱材の状況です。隙間なく施工する事が重要です。

右：床構造用合板張状況です。

※当社の床構造は、床を一体化させた【剛床工法】です。地震等による水平面に対する構造的安定が得られます。





事前に外部足場を組み立ててから行っていきます。
材料は事前に工場で加工済（プレカット）の材料なので組上がりは非常にスピーディーです。



左：1階部分では、仮筋かいを使用して建物の立ち（垂直精度）を確認修正しています。
右：1階の立ちが確認出来たら2階の床合板を張り、その後、防水性能を持った床養生シートで養生します。

上棟



2階まで完了したら、小屋組（屋根部分）に取り掛かります。



▲上棟式
上棟式とは、建物の守護神と匠の神を祀って、棟上げまで工事が終了したことに感謝し、無事建物が完成することを祈願する儀式です。現在では施主が職人を労う意味が強くなって来ています。施主さまの希望があれば開催されています。

屋根工事



▲屋根工事
上棟だけでは雨への対処は出来ていませんので、屋根を仕上げ、雨に対する懸念（雨漏れ）をなくします。

造作工事

壁の下地や内部建具、棚や造付け家具や階段など、住宅として性能も見栄えも機能するよう加工し取り付けていきます。



▲壁工事

外部の壁には、地震に強い構造用合板を使用しています。このため、室内の壁を減らす事が可能となり、広い開口・空間の実現が可能になりました。



▲防蟻処理（吹付）

当社の劣化対策等級は最高等級の等級3です。地盤面から少なくとも1m以下の部分に行います。



▲天井配線状況



▲金物工事

柱と筋かいを専用の金物を使って強固に固定します。

造作工事

建物が完成した後では隠れて見えなくなってしまう部分を、工事の施行中に検査します。



▲断熱工事

建物の床・外壁・天井など、外部に面する部分に断熱材を入れます。



▲木工事（石膏ボード張り）

石膏ボードとは、壁や天井に使用される室内の下地材料です。この上からクロス（壁紙）を張り付けて仕上げていきます。



外部工事



▲バルコニー防水工事

雨水の侵入を防ぐため防水工事を行います。水漏れに対して、10年間の保証がつきます。



▲外壁工事

耐力面材の上に透湿防水シートを張り付けます。透湿防水シートとサイディング材との間に空気層を設け、通風をよくします。

内装工事

壁面・天井の塗装やクロス張り、床面のフローリング張りなどの仕上げ工事を行います。



▲床フローリング工事中



▲クロス貼り



▲建具吊込工事

枠に建具を取り付けることを『吊込』といいます。



完了検査

設計図書と照合し、完成した建物が当社の品質基準に適合しているか最終確認します。



施工

工事がすべて完了しました。

